

◆生育状況について

現在の生育は、満開で昨年より10日程度早い状況。今後の天候次第ではさらに生育が早まる可能性がありますので、作業が遅れないよう小まめに管理作業を行ってください。

J A管内	ナガノパープル			シャインマスカット		
	発芽	開花	満開	発芽	開花	満開
平年	4 / 24	6 / 1	6 / 8	4 / 26	6 / 7	6 / 11
令和8年	4 / 15	5 / 28	5 / 30	4 / 17	5 / 30	6 / 2
令和7年	4 / 20	6 / 4	6 / 8	4 / 22	6 / 6	6 / 11
令和6年	4 / 17	5 / 25	6 / 2	4 / 20	6 / 1	6 / 5

◆当面する重点作業について

1. 開花前管理の遅れにより着粒が不安定な場合は、房型より基準粒数を確保するよう努める。
2. 摘粒・摘房作業で良質な房を残し、摘粒作業が遅れないよう計画的に進めると共に、多粒大房・多着房にならないよう適正に実施する。
3. 降雨が少ない場合は、定期的にかん水を行う。
4. 薬剤散布を適期に実施する。降雨が続く場合は、散布間隔を10日以上空けないよう注意する。
5. べと病の発生源となる副梢及び遅れ花を適正に処理し新梢管理を徹底する。
6. 黒とう病、べと病が発生した場合は、被害房・葉は切除し、園外へ持ち出し処分する。

◆第8回薬剤散布について

1. 散布時期：落花10日以内

実際散布月	日	月	日
-------	---	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：3000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
ホライズンドライフロアブル	2,500倍	40g	21日	べと病
ミギワ20フロアブル	2,000倍	50ml	前日	晩腐病・黒とう病
ディアナWDG	10,000倍	10g	前日	スリップス類

3. 散布上の留意事項
 - 1) 薬斑が残ることがあるので、散布が遅れないようにする。
 - 2) 黒とう病の発生が心配な場合は、ホライズンドライフロアブル+ミギワ20フロアブルに代えて、オーソサイド水和剤80の800倍（水1000ℓ当たり125g）を使用してもよい。ただし、農薬汚れは増加するため、注意する。
 - 3) 着色系の品種は高圧散布すると果紛溶脱が助長するため注意する。

◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期：前回散布10日以内

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：250ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
スクレアフロアブル	2,000倍	50ml	前日	晩腐病・褐斑病
レーバスフロアブル	2,000倍	50ml	7日	べと病

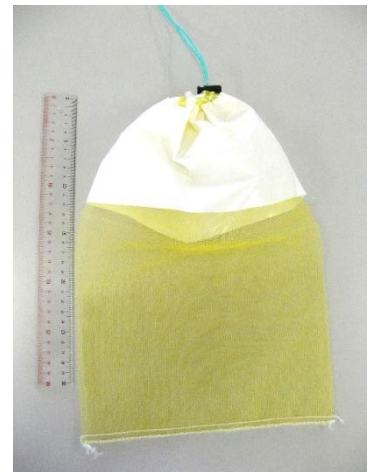
3. 散布上の留意事項

- 1) 袋掛けが終了している場合は、第9回を行わず、第10回以降のボルドー散布に移行してもよい。
- 2) 袋掛けにならない場合は、必ず実施する。また袋掛け直前でも、前回散布から1週間以上散布間隔が空く場合は、袋掛け前に必ず散布する。
- 3) クワコナカイガラムシ発生園は、トランフォームフロアブル2,000倍（水100ℓ当たり50ml）又は、コルト顆粒水和剤3,000倍（水100ℓ当たり33g）を加用散布する。散布の際は、主幹・主枝・特に芽座にしっかりと掛ける。なお、コルト顆粒水和剤は、スリップス類にも効果がある。
- 4) 巨峰を中心に、房の汚れが目立つ時期となる。散布量・細霧掛け・ノズルの点検・2度掛けの禁止などを徹底する。また、展着剤は加用しない。

◆日焼け防止対策と袋かけについて

袋かけと梅雨の中休みや梅雨明け後の高温が重なると、日焼けの発生が心配されるので、日焼け防止対策を徹底すると共に、果粉（ブルーム）の着生を良くするため、早目に袋かけを実施する。

1. 種無しぶどうは摘粒・摘房作業を適期に実施し終了次第できるだけ早く袋かけを行う。
第8回薬剤防除後、早めに袋掛けをしたほうが、農薬による汚れや溶脱が少ない。
ただし、異常高温時または、梅雨明け直後の高温時には袋かけを実施しない。
2. 高温時に袋かけをする場合は、袋の上から「日焼け防止カサ紙」（新聞紙・広告など）や温度上昇が少ないタイベック笠を活用する。
ワンタッチポリ傘は、強日照に対してやや弱い。
西日が強く当たる所、園外周、道路際、若木や樹勢が弱く棚面が明るい所などは、特に注意する。
3. スリップス・カイガラムシは、袋の中に侵入するので口元を止め金でしっかり固定する。
また、ロート状に開いていると雨水が入る。袋は、スリップス防虫処理がされているので1年で使いきりとする。
3. 良好な房から袋かけを行い、予定の枚数が終了したら残りの房を摘房する方法がよい。
4. 房の長いものは粒数が多いので、袋かけの時に再調整する。
5. 昨年、鳥害を受けた園は計画的に袋かけを行う。また、果実袋の上から「ぶどう用かさネット」「ふさねっとな」を使用してもよい。ただし日焼け防止対策も行う。



◆管理作業について

1. 新梢管理（講習会資料参照）

品種名	結果枝の摘心等新梢管理の方法
種無し巨峰 (中梢剪定樹)	棚面の明るさは種ありと同様に必要。混み合った暗い部分を順次整理。水まわり期前は一旦休止し、果房全体に色が回った頃、混んでいる場合は再度実施。 新梢先端は水回り前（満開後35～40日後頃）に、基部から1.5～2mで摘心。先端部分のみ軽く摘心。 遅れた場合は7月下旬から8月上旬に実施。 副梢は、2回目のジベレリン処理以降1～2葉摘心を随時実施。 (水回り前は、一度に強い摘心をしない) 孫枝は基部から欠く。
ピオーネ	満開35～40日後頃（7月下旬頃の果粒軟化期前）に主枝間の中央部で一律摘心。
ナガノパープル	満開20～35日後頃に新梢葉と先端副梢葉をあわせて15～17枚を目安に摘心。 副梢の発生旺盛なので、随時副梢や孫枝の管理（摘心）実施。
シャインマスカット	満開30日頃（7月中旬の果粒軟化期前）までに新梢葉と先端副梢葉をあわせて15～17枚を目安に摘心。（果粒軟化直前の強い摘心は縮果症の発生を助長） また、副梢の整理は2回目ジベ処理後にも細目に実施。
クイーンニーナ	満開50日頃（8月上旬）に実施。（着色前） 着色開始時に直接日光が当たらないと着色しないタイプなので、他の品種よりも園地を明るめに管理。特に着色期は、園地を明るく保つ。
クイーンルージュ®	満開後30日頃（7月中旬の果粒軟化期前）に実施。 着色初期（7月下旬）の管理が重要と考えられるため遅れないようにする。 強い摘心は縮果症の発生を助長する。 開花前の摘心後に発生した副梢は、着房節（4～5節）までは欠き、先端副梢は4枚程度、その他の副梢は2枚程度で摘心実施。 成熟期以降は園内を常に風通し良く明るく保つことが必要であり、摘心作業はこまめに実施。

2. 最終着果基準

品種名等	短梢・中梢栽培				
	房当り 粒数	短梢着房基準 (1m両側合計)	中梢坪当り 着房基準	房数 (10 a 当)	収量(kg) (10 a 当)
無核巨峰 (中梢)	3 5	—	1 0～1 2	3, 750	1, 500
ナガノ パープル	3 0 以内	4 新梢に 3 1mに 7. 5	1 0～1 2	3, 000	1, 200
シャイン マスカット	3 5 若木 3 5～4 0	3 新梢に 2 ～4 新梢に 3 1mに 7 前後	1 0	3, 000	1, 500
ピオーネ	3 0	3 新梢に 2 1mに 6. 7	1 0 以内	2, 800～ 3, 000	1, 500
クイーン ニーナ	2 5	8 新梢に 5 1mに 6. 2 5	8～1 0	2, 400～ 2, 600	1, 200～ 1, 300
クイーン ルージュ®	3 5 大粒 3 0	8 新梢に 5		2, 400～ 2, 800	1, 200～ 1, 400

3. 見直し摘房

袋掛後であっても、着色初めの色の付き方を確認し再調整を行う。

(種なし巨峰、ピオーネ、ナガノパープル、クイーンニーナ)

園全体の房にとび玉が鮮明に出れば、適正着果量。

園全体の房がボウッと色づき、とび玉が不明瞭な場合は、着果過多 → 直ちに摘房する！

ただしクイーンルージュ®の着色は、ボウッと全体的に着色が始まり濃くなっていく。

